

## 1984年 長野県西部地震（土砂崩壊現場の写真）



写真-1 長野県西部地震の崖くずれ

これは長野県西部地震の被害調査に行った時の写真である。この地震は、1984年9月14日に起こったが、当時まだ50歳前半で若かった私は、研究室の助手ならびに院生諸君と相談のうえ、当日の夕方にはレンタカーで調査に出発した。

このような場合、公務なので院生には運転させられないし、助手は運転免許を持っていないし、ということで私一人の運転で出発した。今のようにカーナビはないし、途中迷っても真夜中なので道を聞く人も居ないし、ということでさんざん苦労しながらも何とか朝の4時ごろには現地にとどり着いた。

そして、民宿で仮眠をとったあと、NHKから被害現場から全国に生中継をしたいので出演してもらえまいかとの話があって、急遽午前7時からニュースに出演することになった。

被害現場は、写真-1に示しているように中規模の地すべりがあったところで、頂部では一部道路を横切っている。そしてこの崩壊土砂は下にあったコンクリート製品工場を直撃し13人が亡くなっている。そして中継現場は、写真-1のすべりが道路を横切った、向かって左側の地点であった。写真-2がその放映現場を示しているが、アナウンサーと私はなるべく地すべりに近づいた方が迫力があって良いとのディレクターの仰せであったが、よ



写真-2 長野県西部地震の被害地におけるインタビュー

く見ると道路の舗装面に一本横断亀裂が入っていてそれより向こうは最大余震でもきたら崩れてしまうのではないかと思い拒否した。石垣の上のほうに居るカメラマンは、命綱を腰に巻いているではないか、われわれには何も無いのだからそれ以上は嫌だ、ということです。

こうして中継は始まったのだが、何分もしないうちに本当に最大余震がやってきた。屋外でも相当な揺れだったと思う、誰かが「逃げる」と叫ぶと恥も外聞もなく逃げた。

私は見ていないのだが、その日のニュースの時間に何回も逃げる様子が放映されたと後で聞いた。

（攻玉社工科短期大学 伯野元彦）